

# 圓福寺報



圓福寺報 第五十一号  
 平成二十年七月十五日発行  
 発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺  
 千葉市稲毛区穴川町三七五 Ⅱ (三五二) 九一八一  
<http://www.chiba-enpukuji.com>  
 E-mail: oshou@chiba-enpukuji.com

大分市、萬壽寺専門道場師家  
 閒閑窟老大師ご染筆  
 「日々 新たなり」



目次  
 法話「自在に生きる」 2 頁

「四国あるき遍路の旅」

二巡目 第一回

へんろ De エ 11 頁

第二回四国あるき遍路のご案内

——寺報五十号に寄せて

『臨濟録』を横断縦断して・・・

花園 渡辺 勇

豊後の名刹参拝と名湯の旅

妙心寺開山六五〇年遠諱

団体参拝のご案内

施餓鬼会厳修

穴川花園幼稚園 園だよりから

「わくらはぶじゅ」

お寺と和尚の日録抄

第27回花園会ゴルフ大会報告

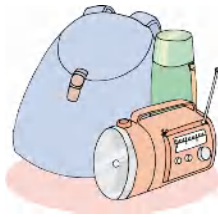
平成十九年度花園会会計報告

地藏盆のご案内

20 19 19 18 17 16 14 13 12 12 11 6 2 頁

# 自在に 生きる

中国四川省の大地震の恐ろしさを新聞・テレビで見ました。他山の石ではないと思っていたら、岩手・宮城内陸地震が起きました。私事ですが、私の田舎も岩手・宮城内陸地震で少し被害がありました。地震後の様子をテレビで見ると、あそこも何回も通ったことのある道だ、避難所も何回も前を通ったことのある小学校だったりしました。



## ■地方地震の特徴

地震後の様子をテレビのニュースやワイドショーなどで見ていると、違うなあと感ずることがありました。まずは、地域の人の横のつながりがあること。隣りのおばあさんの安否が

すぐわかったり、あそこの家は何人家族だから全員無事だとわかったり、〇〇さんも避難所に行くんだったら自分も行くとか、とにかく地域の連携が密だということ。そして、お米や野菜などの食料を持っていて、水も何とか確保することができるところ。三つ目は、救援物資が届かないとか、俺はまだ水をもらっていないとか、あまり文句を言う人がいないということ。これが、都市部の災害だったら、食料はすぐ手に入らなくなりますが、消防はなにをしているんだとか、自衛隊は来ないのかとか、やれ行政が悪い、政治が悪いとか、不満がどんどんエスカレートするだろうと思いません。

なぜだろうと考えると、農家の人が多いことも一つの原因

じゃないかなと思います。農作業は共同作業だったこと。また田んぼにしる、畑にしる、自然を相手に仕事をしています。特に、東北は雪が降り、夏には冷害などがあります。そのときに、文句を言っても始まらないことを良く知っています。おてんとさんに文句を言っても、何も変わらないというのを永年の経験で知っています。ですから、地震という天災に対してだって、誰もどこにも文句を言わない。逆に、救援に来てくれた人に、自分たちの米を炊いておにぎりを作って食べてもらう。自分の仲間や知り合いのために、一生懸命働いてくれる人に感謝こそすれ、なんでもっと早くできないんだとか、そんなことを言う人はいません。



## ■観自在

般若心経の最初に出てくることばをご存知だと思います。「なかなか覚えられない。」という人でも、最初の部分は覚えていると思います。

観自在菩薩

「カンジーザイボーサー」です。観自在菩薩は、観音様のこと、観音様はものごとを自由自在に観ることが出来る菩薩だということです。また、菩薩というのは、すでに修行がお済みになっていらっしゃるにもかかわらず、私たちを救うため、導いてくださるために、娑婆の世界にいらっしゃる仏様だといわれたり、まだ修行途中の仏様とも言われます。いずれにせよ、地蔵菩薩とか虚空蔵菩薩、文殊菩薩などなど、



私たちになじみの深い仏様が多くいらっしやいます。その身近な菩

薩様が、まだ修行途中の仏様というのであれば、余計に親しみが湧きます。私たちだって、坐禅をしたり写経をしたり、遍路をしたり、法要をしたりと様々な形で修行しているわけですから、その意味では私たちも菩薩の末席を汚しているのです。そして、私たちも「観自在」、自在に見るようになるうとしていきます。

自在というと、「自由自在」という言葉があるように、なんでも自分の思うままにやれるとか、思い通りにできることだと思いますが、自在をよく見れば、「在るがままに自る（よる）」という意味だとわかります。

### ■まつすぐ見よ

一休さんのお話です。

あるとき、寺の前に幹がくねくね曲がった松の盆栽を置きました。そして、その脇に立て札を立てて、

「この松をまつすぐ見た人には

ほうびをあげます。」

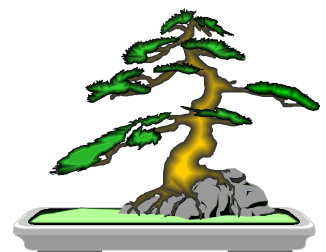
と書いたそうです。

道行く人が立ち止まっては、立て札を読んで松の木を眺めます。どの角度から

見ればまつすぐに見えるだろうか、右から見たり左から見たり、上から見たり下から見たりしました。どう見てもまつすぐには見えませんでした。誰もほうびをもらうことができません。いるところ、一人の旅人が立て札を見て立ち止まりました。そして、松の木を見ていいました。「この松の木は、よくもまあ曲がっているなあ。」その言葉を聞いた一休さんがお寺から飛び出してきて、その旅人にほうびをあげたそうです。

### ■自在を邪魔するもの

もうお気づきでしょうが、とんちの一休さんです。「この松の木をまつすぐに見る。」とい



うのは、ありのままに見るということでした。なあんだと誰もが思うでしょう。ところが、曲がった枝振りを目の前にすると、「まっすぐ」というのは「曲がる」に対してのこととすぐ思ってしまう。私たちのことばに対しての知識が、そうさせます。また、「ごほうび」というものに目がくらんでありのままに見ることができなくなってしまう。私たちの欲がそうさせます。

知識や欲などは、私たちが生きていくうえで絶対必要なものです。漢字を読み書きすること、人と会話ができること、食欲・性欲などなど、なければ困ります。でも、それにとらわれず、できなくなることがあります。それを一休さんは次のように言いました。

「さるほどに心なれば、人々みな観自在なり。」  
知識や欲に振り回されたり、

人と違った意見を言ったら笑われるんじゃないか。あるいは、その程度の見方しかできないのかと足元を見られるんじゃないか、なんてわが身を大切にしなければ、なんて、あるがままを見られなくしてしまう。そんな心をなくしてみれば、誰でも「観自在」になれるはずだということです。

### ■手をなくしても自在

先日、土曜会で大分に出かけました。国東・別府・大分・久住などなど、盛りだくさんな旅程でした。そのバスガイドさんの話で大野勝彦さんという方を知りました。

大野勝彦さんは、阿蘇の広大な農地で農業を営んでおりました。一日の仕事を終えて、大型のトラクターを洗っているときに、トラクターの機械に手を挟まれ、その手

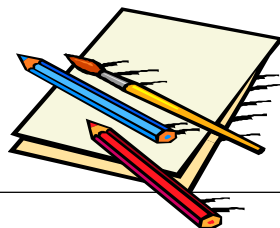


を引き抜こうとしてももう一方の手も巻き込まれ、このままじゃ肩も胴体も引き込まれると思ひ、自分で両手を引きちぎって、命まで奪われずに済みました。それから、今までとまったく違った世界が始まったそうです。

でも、現在のの大野さんは、「私たちの手は、お箸を握ったり、鉛筆を握って字を書いたり、朝から晩まで仕事をしている訳ですが、私は手がまだある時は、人は手を持っていて当たり前と、一回も感謝の気持ちを、手に言った事がありませんでした。多分今、私に手が付いていたら、私は毎日寝る時に手を見て、『今日も世話になったねえ、ありがとう』と言ってから寝ると思いますが、現在の私には、残念ながらそれができません。」とおっしゃいます。

そんな気持ちになるまでには、時間が必要だったと思ひます。なんであのかき機械に手を

突っ込んだんだらうと後悔をしたり、手があればなあと愚痴も出たことでしょう。人をうらやんだこともおありだったと思います。どうせ両手がないからと、自分を卑下されたこともあったと思います。でも、大野さんは変わりました。両手に義手をつけて、鉛筆や筆を持って、詩を書くことをはじめました。それから、絵を書くことをはじめました。その詩を読んだ人から講演を頼まれては出かけました。この残った体で何か人に喜んでもらえることはないか、お役に立てることはないかと、ハガキ絵を書いたり、自費出版で画集を出したり、そしてそれらをまとめたものとして美術館まで建てられたのだそうです。



んなことを並べ立てても何も変わりはないし、逆に余計に愚痴やら嫉妬やらに振り回されてしまう生き方になってしまいうでしよう。「あるがままに自る」で、いま残されているこの体でどう使うか、「この残った体で人に喜んでもらおう」という言葉に、それがよく現われている気がいたしました。

大野さんは両手がなく不自由だと思いません。でも、残った体で人に喜んでもらおうという言葉から、あるがままを受け入れて、不自由なのに「自在」に生活されています。

### ■自在に生きよう

般若心経の冒頭の一文を読んでみましょう。

「観自在菩薩 行深般若波羅密多時 照見五蘊皆空 度一切苦厄」

これまでのお話をまとめて訳してみると、私たちが、ありのままを見る正しいものの見方を

すると、知識や欲などは絶対的なものではないと気づき、それに振り回されることがなく、苦しみ悩みから開放されます、となります。

地震で被災された方にも、あるがままに自るという「自在」の知恵があります。私たちもそんな自在の知恵を持ちたいものです。そのために、常に自分は自在に見ているだろうか、あるがままに見ることができているだろうか、自らを省みる視点を忘れないことです。

観自在の自在は、自らが在るということですから、いろんな物事に振り回されないうで、まっすぐに見る自分があるかどうかを確かめながら生活をしていくことが、自在に生きることかと思えます。

最後になりましたが、岩手・宮城内陸地震に際し、ご心配いただいたり、お見舞いの言葉をいただきました皆さん、ありがとうございました。



## はじまりは、雪と雨

二巡目は、四国八十八ヶ所にゆかりの深い弘法大師へのお参りからということ、高野山に立ち寄り、それから四国に渡ることになりました。

二月末、千葉ではすでに春の兆しを感じられる時期でしたが、高



一番札所靈山寺の山門前にて

野山に着くと、日陰には残雪があります。奥の院への参道は残雪どころか、真冬の雪道という感じでした。

二日目、四国でののはじめての朝は雨で目を覚ますことになりました。

経験者にはなんとということもない雨ですが、初めての人には不安の幕開けだったかもしれませぬ。

宿を出るときには雨も上がりましたが、靈山寺をお参りし、へんろの身支度を整えて歩き始めると、また雨が降り出し、風も強くなってきました。

でも、大自然の前に、私たちはなんと非力なのかは、これくらいやという程知らされません。まずは、四国遍路の入門試験か、小手調べといったところでしょう。



再び降り出した雨に、あわてて合羽を着る。

## 観音経の中に

うんらいくせい でん ごうばくじゆーだいうん

雲雷鼓掣電 降雹澍大雲

ねんびーかんのんりき おうじーとくしやうきん

念彼観音力 応時得消散

とあるように、あるき遍路をすすむうちに、雪も雨も天からの慈しみの雪や雨と思えるところが育っていくから不思議です。

## 遍路古道を行く

三番札所金泉寺から四番札所大日寺へのへんろ道には、古道が残っています。あるき遍路の風情が増します。でも、気をつけていないと、高速道路工事のために消えてなくなったり、付け替えられたへんろ道もあり、見過ごしてしまいます。

自動車やその排気ガスを気にせず、足に負担のかからない土の道を道しるべにしたがって行けば、いにしえの遍路たちもこの道を歩いただろうと、時空を越えた思いが湧いてきます。す

でに同じ道を何回か歩いていると、前回の自分にあっているような気がしてきます。そのとき、どんな思いで歩いたのか、どんなことを感じたのか思い出そうとしている自分に気づきました。おそらく、父親と同じ職業を選んだ息子が抱くであろう気持ちに似ているのだろうと思います。それを、四国遍路は一人で歩いてても、「同行二人」とも言い表すのでしよう。遍路古道を歩いていると、お大師さんもこの道を歩いたんだらうなど自然に思うようになりますから・・・。



四番札所大日寺への遍路古道に分け入る。

### 長い参道を抜けて

地蔵寺から山門を出ると、大きめの石が敷きつめられた参道が続きます。参道の両側には低い土墨が築かれ、土墨の植えには桜の木が植えられて、桜並木を作っています。寺号石を過ぎても、なおまっすぐな道は、地蔵寺の参道です。かつてはこの参道の両側にへんろ宿があったのだろうと思わせるような建物がまだ残っています。

へんろの計画を立てる時には、この参道に面した「森本屋」さんというへんろ宿に泊る

うと思いましたが、「ばあちゃん一人でやってるから、二十人も団体は無理だよ。」と言われてしまいました。そんなへんろ宿もまだ残っていました。

長い参道から右に曲がると、集落の中のへんろ道です。鈴の音が、両側の塀や壁に反響して、一段と大きく聞こえる中を、六番札所まで約五・三kmです。

### 近代的宿坊

六番札所安楽寺から七番札所十楽寺まではわずかな距離です。

今日の遍路中、一番竜宮城っぽい門は、ここの鐘楼門かもし



地蔵寺の長い参道を歩いて、へんろ道に向かう。



れません。鐘樓門をくぐり、石段を登り、山門をくぐると砂利が敷き詰められた境内となります。右手に、近代的な白亜の庫裏・納経所・宿坊が建っています。

まずは本堂と大師堂にて、二日目最後のお参りです。無事歩き通せた安堵感が漂いました。

宿坊に行く、履物はそのままでお部屋までどうぞとのこと。なんとここはビジネスホテルばりのシステムになっていました。部屋のキーはカードキー、予約するときに、「部屋の基本は、ツインルームです。」というぐらいで、部屋はツインルーム

がほとんどのがほとんどのように宿坊とツインルームという組み合わせに、一瞬耳を疑ったほどです。



七番札所十楽寺。後方左が近代的宿坊。

宿坊は雑魚寝が基本と聞いていました。初めて一緒に旅をする人との出会い、同室の人との話の中での癒しもあるでしょう。四国へんろに出かけようと思っただけを聞くことも、自らの気持ちを知るいい機会になります。そんな深い話をできるようになるまでの、酌み交わす一献もまたいいものです。

そこで、宿坊の思惑を曲げていただいて、できるだけ雑魚寝できる部屋を予約しておきました。折角の団体あるき遍路ですから・・・。

## 初お接待

三日目日は、十楽寺を出発して、古い集落を縫うようにして八番熊谷寺をお参りし、九番法輪寺からはのどかな田園風景の中のへんろ道を行きます。道端に古い道標やお地藏さん、小さな川を渡ったところに小さなお

堂が建っていたり、へんろ道も昔ながらののどかな空気が漂っています。

程なく少し大きな道に突き当たります。そのまま行こうかと思いましたが、突き当りの店先で小休止することになりました。思わず通り過ぎてしまいました。店先にイスとテーブルがだしてあり、「お遍路さん、休んで





十番札所切幡寺の石段。

いってください。」と張り紙がしてありました。ごちそうになることにしました。初接待です。二十人もの団体で本当に恐縮でしたが、お湯のお変わりまでお願いして、なんと凶々しいことか・・・。店のおばさんが、「昨日あたりから暖かくなつたから、お遍路さんも増えたね。昨日まではポット一つで足りたのに。」と言って快くお湯の入ったポットを出してくれました。いえいえ、たまたま私たちの団体あるき遍路が来たからですよとは言えず、おいしくいただきました。

## パッチワークのお寺

一番札所から吉野川北側を西に進んだへんろ道は、十番札所切幡寺で終わりとなり、そのあとは南下して吉野川を渡ります。

切幡寺の縁起では、その昔、旅の僧がこの山の麓を歩いていると、機織りの音が聞こえたそうです。旅で痛んだ衣を繕う布を乞うたところ、機織りの娘が織りかけの布を施してくれたそうです。そんな因縁で、このお寺は切幡寺となつたと伝えられています。

布切れを縫いをあせて衣を作るのは、お釈迦さまの時代からのことで、今でもお坊さんが身につける袈裟は、小さな布を縫い合わせて作られています。今で言う、パッチワークの元祖です。そこで、修行僧の衣のことを「糞掃衣」ともいいます。人が不要になつたような汚い切れ

を縫い合わせて作ったという意味です。

今では、小さな布を縫い合わせて作ることは、手間がかかり費用もかかるものになっていきますが、もともとはそんな意味があるんだということを、お寺の名前が教えてくれます。

南に下り、吉野川の沈下橋の途中で川風を浴びながら、小休止をしました。あるき遍路ならではの、自然との一体感を満喫することができました。

吉野川の南岸に着くとほどなく今回最後の札所藤井寺です。圓福寺と同じ臨濟宗妙心寺派の藤井寺をお参りして、第一回目を終えることにしました。



吉野川に架かる沈下橋で一休み

2巡目の四国あるき遍路の旅では、エコ対策のために下記のような趣旨で「マイはし」を持って歩くことにしました。

## 遍路 de エコ！

——文字通りのはし書きです。

### ■ 温暖化対策

地球温暖化が言われはじめ、CO<sub>2</sub>排出削減や森林保護など様々な対策が講じられています。国や企業だけでなく、私たち一人ひとりも心がけなければならない時期が来ているのではないのでしょうか。

道歌に「借りおきし、五つのものを四つ返し、本来空に今ぞ戻らん」とあるように、私たちがお借りしている地球もきれいなままお返ししなければなりません。それは、私たちの子どもや子孫のためにも……。

### ■ 行脚の必需品

あるき遍路での住職の姿は、臨済宗の行脚の正装です。その行脚の持ち物の一つに「箸」があります。食事のお経を読むときの析たく（拍子木）代わりにするために、手にするところが極端に太く作られています。もう一つの意味は、割り箸一本といえども木のいのちがあり、修行中の未熟者の自分のために木のいのちを奪うことに対する戒めが込められているのです。

### ■ 言うは易く

森林保護だとか、木のいのちを守るとか、言うは易くです。わかりきっていることですが、一人でやるとなると恥ずかしかったり、キザだったりします。そこで、四国あるき遍路の仲間で、みなそれぞれお箸を持参して、エコを実践したいと思います。皆でやればこわくない、ではなく、できるはずです。

お寺で勝手に、遍路用箸などと銘打って作ってしまいました。このお箸を忘れずにご持参下さい。

### ■ 長寿箸

これから、何年かけて四国八十八ヶ所を歩いて回ろうなんて、気が長い皆さん。「気が長い」→「意気が長い」→「生きが長い」となります。そんな皆さんが持つお箸は、長寿のお箸になるはずです。

圓福寺

参加者募集  
約20名

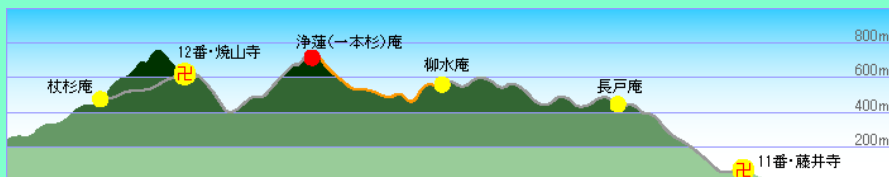
第2回

2巡目

四国あるき遍路の旅



- ◆時間があれば行きたい方・・・土日を利用しての二泊三日の旅です。
- ◆まだ遍路に行く年でもないからという方・・・体力のあるうちですよ。
- ◆興味はあるんだけどという方・・・思い立ったが吉日といえます。
- ◆どんな人が一緒なのか不安な方・・・一緒に歩けば、皆、仲間になりますよ。
- ◆体力に自信のない方・・・マイペースで大丈夫。疲れたらタクシーも可。
- ◆わからないことがある方・・・どうぞお問い合わせください。



二巡目の第二回の参加者を募集いたします。  
二回目は、四国八十八ヶ所最初の難所といわれる「焼山寺」へのへんろ道を行います。ここを歩くことで、あるき遍路もようやく一人前です。

【日程】 十一月十四日(金) ～ 十六日(日)

【旅程】 飛行機にて徳島へ。徳島近郊の札所をお参りの後、十一番門前にて宿泊。二日目朝から十二番焼山寺に向けて山中のへんろ道を歩く。夕方焼山寺着、宿坊泊。三日目、焼山寺から再び山中のへんろ道を経て、川沿いのへんろ道を歩いて、十三番札所を目指す。  
総歩行距離 約四十二km

【参加費】 約五〜六万円を予定

【申込】 お電話・メールなどで、お寺までお申込下さい。

寺報五〇号に寄せて(その2)  
『臨濟録』を横断縦断して・・・。

花園 渡辺 勇

今回は「臨濟宗の祖師」である臨濟禅師の「語録」を、私を感じたままできるだけ分かりやすくが伝えられたらと思います。

まず最初は、「この赤肉団上に無位の真人がいる。まだ見届けていない者は、さあ看よ！」です。

一般的には「見る」と言いますが、臨濟が「看よ」といったのはどういふふうに見ることなのでしょう。この「見る」は看護とか看守とか看過という熟語につかわれています。「看る」の意味は「よくみる」ということです。目の上に手をかざしてよく見るといふのが、原意のようです。ですから坐禅中も、日常生活でも「よくよくみよ」ということでしょう。

「よくじつと看る」と、この肉の塊の中に、位置づけることのできない、真人がいる。よく見てみる、と臨濟は言っています。うっかり、ぼんやり、みていると、それは見えないぞ、と叱咤しているような気がします。

では通常、私たちがどんなふうに見ているかを、臨濟禅師はつぎのように言っています。

「他人の言葉にまどわされるなという

# 豊後の名刹参拝と名湯の旅



ことだけだ。自力でやろうと思った  
ら、すぐやることだ。決してためらう  
な。」

「お前たち、こうして外に音声言語が  
発せられるのは、心中に分別したり思  
慮したりしたものの表現で、それには  
まず意思が動いて想念を起こすのだ。  
だからそれらはみな衣である。ところ  
が、お前たちは無依の道人がきている  
衣だけに目を注いで、それを真実だと  
考えている。そんなことでは、たとえ  
無限の年月修行しても、迷いの世界に  
輪廻する生活は変わらないぞ。」

つまり、臨濟禅師は、われわれの姿  
を、次のように見ておられる。

言葉から受ける刺激にまどわされ  
る、とか、そこからくる感覚的な情報  
に振り回される、だとか、意思がはた  
らいて想念が言葉を発するが、そうし  
たものを「自己」だと思っている、と  
か、それらの衣を着て、今現に躍動し  
ている真人を信じようとする。

それが、臨濟禅師の見方で、そんな  
ことではいつまでも六趣輪廻を抜けだ  
せないぞ。位置づけようもない「そい  
つ」をつかまえる、と臨濟禅師は言っ  
ています。

では、「そいつ」とは一体なんで  
しょうか。

「そこでこの説法を聞いているそいつ



# 大本山妙心寺開山無相大師六五〇年遠諱

## 大法会参拝の旅

来年は、妙心寺開山様の六五〇年忌の正当年です。大本山妙心寺では、右の通り大法会を厳修いたします。

それにあわせて、圓福寺では左記ご案内の通り、お参りに行きたいと思っております。

請務  
其本

開山無相大師六五〇年遠諱

# 大法会

平成二十一年  
三月二十六日(木)～四月十二日(日)  
平成二十一年  
十月一日(木)～十月十八日(日)

臨濟宗妙心寺派 大本山 妙心寺

臨濟宗妙心寺派 大本山 妙心寺 〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町 TEL.075-463-3121 <http://www.myoshin.com/>

がそうだ。」

「修行者たちよ、お前たちが今、説法を聞いているものは、お前たちの肉体ではない。その肉体を使っている主人公なのだ。」

「そいつ」というのは、自己だとか、自我だとか、自分自身だとか、そうした言葉で固めてしまうものではないらしい。なぜならば、位置づけることが困難だ、そうした概念や観念でとらえられないぴちぴちとはたらいしている肝心の「そいつ」というのは、なものにも依存しない、抛り所にするものをもっていない「そいつ」であるから、はたらいした跡形を残さないのだという。だから、理性だとか、アイデンティティというものではないし、ましてや、「おれがやったんだ。」とか、「こんちくしょう、あんなことを言いやがって・・・」というような感情の跡をのこさない「そいつ」である。

「眼では見、耳では聞き、鼻ではかぎ、口では話し、手ではつかまえ、足では歩いたり走ったりするが、もともとこれも一心が感覚器官を通してはたらくのだ。根本の一心が無であると徹底したならば、いかなる境界にあっても解脱だ。」

「お前たちの胸中に去来する一念一念がそのまま実体の無いことに徹底すれば、」

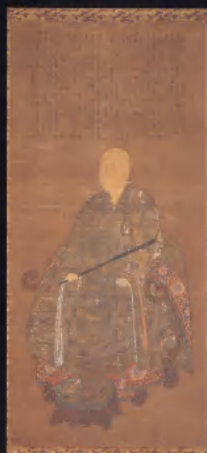
— 妙心寺の宝物を一堂に展示 —

請本 其 妙心寺展

開山無相大師六五〇年遠諱記念事業



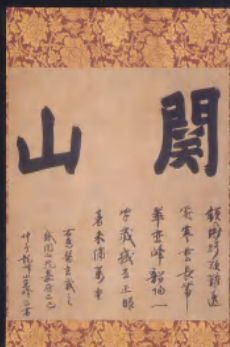
【国宝】開山無相大師 頂相



開山無相大師 頂相



【重要文化財】南山四地回屏風 狩野山楽筆



【国宝】関山寺 宗義抄経巻

平成 21年 1月20日(火)～3月1日(日)  
東京国立博物館 共催/読売新聞

平成 21年 3月24日(火)～5月10日(日)  
京都国立博物館 共催/読売新聞

平成 21年 10月10日(土)～11月23日(月)(予定)  
名古屋市博物館 共催/中日新聞

平成 22年 1月1日(金)～2月28日(日)  
九州国立博物館 共催/西日本新聞

臨濟宗妙心寺派 大本山 妙心寺 〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町 TEL075-463-3121 <http://www.myoshin.com/>

■日程 平成二十一年四月八日  
(水)～十日(金)

■旅程

一日目 新幹線にて京都。妙心寺にて  
大法会参拝。妙心寺宿坊「花  
園会館」泊。

二日目 京都国立博物館にて「妙心寺  
展」(左パンフレット参照)  
見学。バスにて長浜、国宝彦  
根城拝観。長良川温泉「岐阜

三日目 グランドホテル」泊。  
妙心寺奥の院「正眼寺」(普  
段は拝観謝絶)参拝。国宝大  
山城拝観。名古屋から新幹線  
にて帰路。

■募集人数 四十名

■参加費

■申込 お寺までご連絡下さい。

ば、それを喚んで悟りという。」

「一心が無、だとか、実体が無い、と  
いう臨濟禅師のことばが出てきまし  
た。ここところは私が坐禅をしてい  
て経験したことを述べるのが一番良  
いと思う。坐禅は呼吸に意識を集中す  
る。ところが無理やりそうした集中力  
をはたらかせていても、そう長くは続  
かないから、ただ意識の動いていると  
ころ、妄想が湧いて出てくるところ  
に、どかりと坐り込んでいると、

「一念一念には実体が無く、ちようど  
響きが空中にこだまするようなもの  
だ。」という実感を体験する。あ  
あつ、「無」というのは、そういうこ  
とだったのか。

次に臨濟がいうことに注目してみよ  
う。

「お前たちの今のはたらきに何が欠け  
ていて、そこをどう補わねばならぬと  
いうのか。」

「今こそ、自らがほんらい無事の人で  
あると知るはずだ。残念ながらお前  
たちはそれを信じきれないために、外に  
向かってせかせかと求めまわる。」

「現在がそっくりそのままだ。そこに  
なんの悟るの悟らないの沙汰がある  
う。」

「そこまで臨濟に言われると、「なあ  
んだ、そんな簡単なことだったのか」

このページの写真は石川信子さんです。  
バックの蓮の写真は千葉公園の池だそうです。



# 施餓鬼会厳修

毎年恒例の施餓鬼会が、七月五日・六日の両日にわたって、初盆施餓鬼ならびに山門施餓鬼が厳修されました。この二日間だけ、急に蒸し暑くなりましたが、堂内は空調設備のおかげで気持ちよくお参りすることができました。

両日とも、法要に先立って、「三宝<sup>さんぼう</sup>恭敬御和讃」と「みほとけは ご詠歌」が奉詠され、読経とは違った柔らかな音声が堂内にあふれました。六日の山門施餓鬼には、十一名もの



和尚様方が御出頭くださり、厳粛なお施餓鬼となりました。  
二日間合わせて、二百五十余名の方がお参り下さいました。

「みほとけは ご詠歌」  
みほとけは  
どこにおわすと  
たずぬる人の  
尋ぬるに  
响のあたりに

と気づきます。誰にでも、私の経験したことは経験できるはずですが、無が湧き出し口になっている活潑潑地の念いです。六祖が言った「ありのままの念い」です。

臨済はさらに、

「お前たちよ、どんな場合でも自己がはつきりしていれば、外境にいかなる変化が起ってもふりまわされることはない。」

「君たちは、その場その場で主人公となれば、おのれの在り場所はみな真実の場となり、いかなる外的条件も、その場を取り替えることはできぬ。」

ありのままの念いは、なにもものにも依存しない独立した真人の活動で、諸仏の母であり、だからこそ仏もまた実体として存在しないことが、体験できるのです。

朝比奈宗源老師と入矢義高先生の臨濟録を、横断縦断して読みながら、円福寺の坐禅会に参加して、私が気がついたことをまとめてみました。まだ到達しなところだらけではありますが、得がたい体験をしたんだという、喜びを感じています。

最後になりましたが、円福寺の宗格和尚と坐禅会への深い感謝の気持ち。それと同時に、寺報の五〇号発刊を心からお祝いを申し上げます、拙文を終わりたいと思います。

合掌



「ゆいらいぼんじわっ。」

先日は、たく



※さんのQ園隊をありがとうございました。原っぱでお弁当を広げられるようにと思い、前々日から草刈りをしました。機械で何往復もする途中、草の中からかわいいきれいな花がたくさん顔をのぞかせます。ところが、その花の名前がとんとわかりません。小学生から理科を勉強したり、高校では「生物」を選択もしました。それでもわかりません。そういうえば、高校のときに勉強した「生物」で、今役立っているものは何だろうと思ってしまうました。生物の成り立ちや組織などを勉強するよりも、あのとき、一つでも多くの花の名前を覚えたりしたい方が、後々の生活を心豊かにしたかも知れないのに・・・、と思っていいたら、か

※Q園隊・・・市原の畑のお世話をしてくださる保護者ボランティアの名前。

わいらしい花を草刈り機で刈ってしまったっていました。

そこで、今回のQ園隊では、

※ネイチャーランドの植物の名札つけを手伝ってもらいました。（お疲れのところ、恐縮でしたが・・・。）

名札に書かれている植物を探して、ウツティな名札を付けてくるネイチャーゲームです。うめ・さくら・くわなどといった見慣れたものから、うわみずさくら・エゴノキなどの聞きなれないものなど、たくさん名札を作りました。

うめはまだ苗木ですから分からないのも分らないではありません。でも、さくらを見つけたられない人もいたそうです。花が咲いていたらわかるに違いありません。



※ネイチャーランド・・・市原別院用地にある幼稚園の自然体験園の名前。

せん。そうしてみると、私たちは植物の一面しか見ていないんですね。花が散ったら、とたんに桜か何かわからなくなってしまう。



その日のエピソードを聞いて、私たち大人が子どもを見るとき、その子の良い点や悪い点などの特徴的なところばかり見て育てていないだろうか。普段のさりげない日常の姿もきちんと見て、良い点ばかりじゃない、悪い点ばかりじゃないと見ること大切だなあと感じました。

「桜」といえば春を代表する花ですが、花だけでなく、葉っぱや実にもさくらの特徴があり、それらを見て「桜」とわかることが心豊かにしてくれることでしょうか。葉っぱを見つけて、こんなところに桜があったんだ、来年の春、花を見に来て見ようと楽しみが増えますから・・・。

（7月の「園だより」から）

平成二十年上半期  
お寺と和尚の日録抄

1月 1日 新春ご祈祷  
 1日～3日 修正会  
 16日 社会保険センター写経講座  
 20日 花園会新年会  
 22日 幼稚園、千葉県学事課検査  
 26日 幼稚園バザー「くすのきまつり」  
 28日 東京教区第七部内会  
 30日 平林寺老大師相見  
 2月 3日 写経会  
 6日 社会保険センター写経講座  
 8日～10日 幼稚園、涅槃会  
 14日 幼稚園、職員研修旅行  
 14日 ご詠歌自主練習  
 20日 社会保険センター写経講座  
 25日～26日 臨済宗青年僧の会 於浜松  
 28日 ご詠歌自主練習  
 29日～3月2日 四国あるき遍路の旅(二・一回目)

3月 5日 社会保険センター写経講座  
 7日 月例役員会  
 9日 写経会  
 13日 ご詠歌講習会  
 15日 幼稚園、卒園式  
 16日 彼岸法要・先任職七回忌  
 22日 彼岸法話会 布教師 藤原東演師  
 23日 取手長禅寺彼岸法要  
 28日～30日 冬の寺子屋 於群馬県玉原  
 4月 10日 幼稚園、入園式  
 16日 社会保険センター写経講座  
 18日 取手長禅寺観音祭り  
 5月 7日 社会保険センター写経講座  
 11日 写経会  
 16日 絵手紙供養  
 17日 土曜会、市原ボランテラ  
 21日 花園会ゴルフ大会  
 6月 4日 社会保険センター写経講座  
 8日 写経会  
 18日 社会保険センター写経講座  
 21日～23日 土曜会、豊後の名刹参拝と名湯の旅

# 第27回花園会ゴルフ大会

5月21日 於：真名カントリークラブ ゲ-リ-プレーヤ-コ-ス

順位		グロス	ハンディ	ネット
優勝	杉本 朝春	82	21	61
準優勝	松田 汎司	98	24	74
3位	白波瀬 裕二	97	22.8	74.2
4位	柴田 英才	96	21.6	74.4
5位	松丸 正憲	91	15.6	75.4

ベストアップ		-15	杉本 朝春
ドラコン	柴田 英才	ニアピン	杉本 朝春
	白波瀬 裕二		柴田 英才
ドラタン	福田 和夫		小山 稔
	荒井 恒夫		岡本 報頭

新緑の五月、天候にも恵まれて、二十七回目の花園会ゴルフが開催されました。房総の軽井沢と形容する人もいる真名の山中。きれいな緑、きれいな空気、後は腕前だけが・・・なのですが、参加者それぞれ実力を発揮して、白熱した試合でした。結果は

表の通りです。結果を見ると、杉本さんの大差の勝利で、白熱していたのは、二位以下の参加者だったようです。ベストアップ賞は、前回のスコアより良いスコアになった人のトップのプレーヤーに与えられる賞です。なんと杉本さんは前回より十五もスコアが縮まり、優勝とあわせての受賞となり、活きた毛ガニはじめ、たくさん賞品が贈られました。いつも以上にパーティも盛り上がり、閉会となりました。参加者の罰金で集められたチャリティは、妙心寺おかげさま献金を通して、ミャンマーサイクロンと中国四川省地震への義援金とさせていただきます。義援金額は、三万五百円でした。

次回は、十月二十二日（水）に開催予定です。皆様のご参加をお待ちしております。



## 平成19年度花園会会計報告

平成19年4月1日～平成20年3月31日

	科目	金額	備考
歳入	前年度繰越金	265,191	
	お寺より活動費	1,450,000	
	行事収入	493,510	年越し参り、地藏盆
	参加費収入	1,108,382	土曜会・新年会・写経・ご詠歌ほか各種行事参加費を含む
	雑収入	1,124	預金決算利息
	歳入合計	3,318,207	
歳出	宗派賦課金	167,500	本山納付花園会費、災害見舞金ほか
	行事費	1,866,266	年越し参り・禅童会・土曜会・写経会・ご詠歌ほか
	事務費	186,216	行事案内状の印刷費・郵送料を含む
	会議費	368,818	月例役員会ほか
	研修費	158,000	650年遠諱大法会参拝参加費2名(東京教区7部)
	慶弔費	115,135	霊桃寺香典・花輪、長禅寺、福田様ご尊父、斉藤元会長香典
	寄付金	113,925	三人掛け椅子 10脚 お寺に寄贈
	人件費	120,000	事務手伝い謝礼
	雑費	5,644	ご詠歌道具一式引き取り料ほか
	歳出合計	3,101,504	
剰余金の¥216,703は次年度繰越金としました。			



子どもたちのお盆

# 地藏盆のご案内



8月23日(土)

午後5時	供養受付(本堂にて)
5時半	水子・ペット・人形供養
6時	御霊送り
8時	模擬店閉店・地藏盆終了



## ご供養のご案内

地藏盆では、水子供養とペットの供養、人形の供養とお焚き上げをしております。供養をなさりたい方は、添付の申込書を郵送して下さるか、お電話にてお申込下さい。

### \*供養料

水子	一霊位	三千元
ペット	一霊	千円
人形	一体	千円

\*供養料は当日の受け付けです。



山岡鉄舟母堂のお地藏さんにちなんで、毎年開催されている「地藏盆」も今年で第十七回。今年は八月二十三日です。参道の両側に、「禅童会」に参加した子どもたちが作った灯籠が飾られ、境内のわらべ地藏たちにお灯明があげて、本堂では、水子供養、ペット・人形の供養。そのお灯明を頂いての「みたま送り」、幼稚園児の盆踊りとなります。

## お品書き

手作りの焼きそば、炭火やきとり、山形産玉こんにゃク、昔なつかしの駄菓子、市原産米のポン菓子の実演販売、冷たい生ビール、ジュース、こころじずかに野点の一眼、その他

